IWATE MEDICAL UNIVERSITY NEWS

岩手医科大学報

2017. 2 No.485

盛岡城跡公園で開催された「もりおか雪あかり」（2017.2.9 撮影）

Iwate Medical University

主な内容

巻頭言――岩手県高度救命救急センター長就任のご挨拶
特　集――創立120周年記念事業の取り組み
トピックス――平成29年度一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験が行われました
フリーページ――すこやかスポット医学講座No.75
「過眠（かみん）症をご存知ですか?」

岩手県高度救命救急センター長就任のご挨拶

岩手県高度救命救急センター長
井上　義博
（救急・災害・総合医学講座救急医学分野 教授）

この度2016年12月1日付けをもちまして岩手県高度救命救急センター長を拝命いたしました、救急医学分野の井上義博です。身に余る光栄でありますとともに、その重責に身の引き締まる思いでございます。

救急医療は転落や交通事故といった外傷とともに発展してきました。それに加え急性冠症候群、脳卒中、急性腹症といった内因性疾患が加わり、多様性を帯びてきました。まさに様々な領域の垣根を超えた迅速診断と集中治療が求められる部門です。また、救急医療において、早期の危機状況を脱した後、死亡に最も関連するのは敗血症です。診療主体である救急医学分野では以前から、敗血症の早期診断、治療に取り組んできました。その結果、敗血症治療では日本をリードする治療成績を達成しております。

今現在疲弊しつつある日本の救急医療にとって、救急医を育てることは医療崩壊を防ぐためにも、重要な課題です。そのためには救急医療の魅力を周知し、救急医療を学ぶ意欲を高めることが必要です。我々は医学部5年6年から初期研修医に至るまで、様々なシナリオによるシミュレーターを用いた模擬診療を構築し、実習しており、学生や研修医から高い評価をいただいております。さらに専門医研修においては、当施設の特徴である専門分野を持った救急医を育成し、医療過疎の進む岩手県に相応した医師の育成に努力したいと考えております。

2019年度には矢巾キャンパスに新病院が完成し、内丸メディカルセンターとともに診療体制が大きく変化いたします。高度救命救急センターの診療主体は矢巾に移動する予定ですが、ドクターヘリのヘリポートが高度救命救急センターと直結することにより、ヘリ搬送による診療が利便性を増し、岩手県の救急医療に大きく貢献すると考えられます。さらに循環器疾患を含めた3次救急外来の一本化により、大学病院運営に対して高度救命救急センターの果たす役割が、より重要なものとなります。

もとより微力ではありますが、高度救命救急センター並びに大学のさらなる発展のため、誠心誠意尽力する次第でございますので、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

特集

創立120周年記念事業の取り組み

企画部　創立120周年記念事業事務室

【創立120周年記念事業について】

本学は明治30（1897）年4月20日、創立者三田俊次郎が岩手県の医療の貧困を憂い、私財を投じて開設した私立岩手病院に併置された医学講習所を淵源としております。三田俊次郎は同時に産婆看護婦養成所を併設し、医師のみならず産婆・看護婦の養成も開始しました。医学講習所の設置から本年で創立120周年の節目を迎えるにあたり、創立者が掲げた厚生済民の原点に今一度回帰するとともに、かねてより進めてきた矢巾キャンパスへの附属病院移転整備、内丸地区再整備に加え、来年度から新たに開設となる4年制看護学部の設置を柱とする創立120周年記念事業を実施しております。

創立120周年記念事業事務室では、この記念すべき年を盛り上げるべく、学内外に向けた広報展開をはじめ、さらなる支援の拡大に向けた募金活動の展開のほか、記念誌の発刊に向けた史料整備を進めてきました。本号ではこれまでの取り組みを【総務広報】・【募金事業】・【史料整備】の3つの軸からご紹介いたします。

総務広報

創立120周年の節目に向け、学内外の機運向上や地域とのつながりの強化を図るべく、記念イベント「健康フェス」の開催をはじめ、記念グッズやカウントダウンモニュメントの制作等、さまざまな広報展開を図っております。

記念ロゴマーク・スローガンの制定

IWATE MEDICAL UNIVERSITY 120th since 1897

誠のあゆみ、未来へつなぐ

一般公募を実施し、ロゴマーク部門には64作品、スローガン部門には77作品が寄せられました。ロゴマークは本学に現存する建物で最も古い1号館をモチーフに描かれ、スローガンには先人たちの輝かしい歴史と今後の記念事業への希望が込められています。

記念バナーフラッグ・カウントダウンモニュメントの制作

記念ロゴマーク・スローガンの活用媒体として記念バナーフラッグ、カウントダウンモニュメントを制作・設置しました。昨年11月には地域住民への広報展開の一環として、矢幅駅東口広場の照明灯7基に記念バナーフラッグを新たに設置しました。

記念バナーフラッグ

矢巾キャンパス

矢幅駅東口広場

カウントダウンモニュメント

内丸キャンパス

矢巾キャンパス

記念事業特設サイトの開設

記念事業の進捗を随時紹介しています。是非ご覧ください。

●特設サイトはこちら●

http://iwate-med-120th.jp/

創立 120 周年記念対談

脚本家・作家の内館牧子氏と小川理事長による特別対談が行われました。

（2014 年 10 月 13 日岩手日報掲載）

●全文記事公開中●

http://iwate-med-120th.jp/taidan1/

壁新聞の発行

本学の歴史や記念事業のこれまで、そしてこれからの動向を逐次発信する媒体として、2016 年 4 月から「壁新聞」を発行しました。

●バックナンバーはこちら●

http://iwate-med-120th.jp/public-relations/wallnewspaper-2/

ラッピングシャトルバスの運行

内丸キャンパスと矢巾キャンパス間を毎日 7 便運行するシャトルバスに現岩手医科大学 1 号館（旧私立岩手病院診療棟）と矢巾キャンパスの写真をラッピング加工しました。

ノベルティグッズ等の制作

大学ブランドをより積極的に発信すべく、教職員・学生・圭陵会員・ご父兄の皆様に向けて、記念グッズを制作しました。

マウスパッド

付箋メモ

ピンバッジ

トートバッグ

ネクタイピン

エンブレム

クリアファイル

救急セット

名刺テンプレート

3 種類の名刺テンプレートを制作しました。

記念ステッカー

身の回りのステーショナリーなどに貼ることのできるステッカーを制作しました。

各制作物に関する詳細は、創立 120 周年記念事業事務室（内線:7022）までお問い合わせください。

盛岡駅電飾看板の設置

駅利用者の視野に自然と反復的に入り込む交通広告媒体として大型電飾看板を盛岡駅南側2階に設置しました。

公用車用マグネットの制作

県内に向けた幅広い宣伝効果を狙い、公用車用マグネットステッカーを制作しました。

健康フェス 2015・2016 の開催

記念事業の一環として、「健康」をテーマに地域とのつながりを深めるとともに、県民の健康増進を目的とした全学的イベントを実施しました。教職員及び学生等のご協力をいただき昨年、一昨年ともに、大盛会のうちに幕を閉じました。

学生によるステージイベント

歯科材料体験

保育指導・相談

スタンプラリーの特典として記念イベント限定タオルを制作・配布。

創立 120 周年記念式典・祝賀会の挙行

○ 挙行日

2017年 4 月 20 日（木）

○ 記念式典

午後 2 時　岩手県民会館

小川理事長による記念講演

本学管弦楽団による祝賀演奏等

○ 祝賀会

午後 5 時　盛岡グランドホテル

記念式典パンフレット 表紙決定！

ご協力誠にありがとうございました。

記念式典パンフレット表紙の選定に係る学内投票の結果、右のデザインが選ばれました。ご協力頂きました皆様には、心より感謝申し上げます。パンフレットは記念式典にご出席の皆様へ配布いたします。

募金事業　創立 120 周年記念事業募金

創立 120 周年記念事業の遂行を目的とした寄付金を募り、教育・研究・医療の一層の充実に努めております。寄付者には事業の進捗をお伝えするとともに、大学報やWEB芳名録をはじめ記念品の進呈等、顕彰制度の充実にも力を入れております。

募集期間　2014 年 6 月～ 2019 年 5 月　　募金目標額　50 億円

応募状況　【個人】1,083 件　651,597,089 円　【法人・団体】140 件　492,281,000 円（2016 年 12 月末時点）

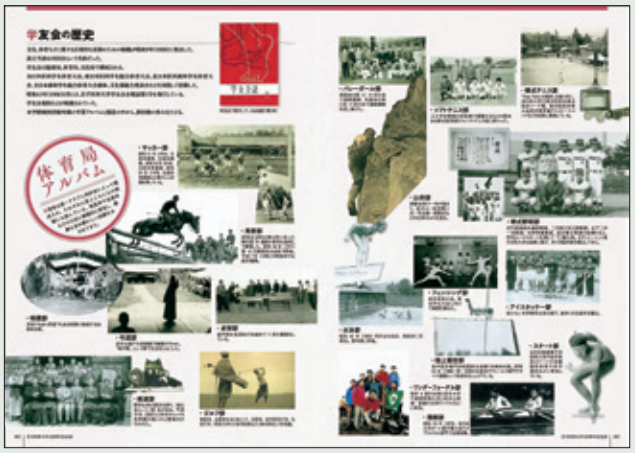
【合計】1,223 件　1,143,878,089 円

※ 募金状況の詳細については、8 頁に掲載しております。

史料整備　創立 120 周年記念誌　～誠のあゆみ、未来へつなぐ～

2017 月 4 月発刊予定

明治から脈々と受け継がれてきた歴史を今に伝えるべく、盛岡市先人記念館や岩手県立図書館等をはじめ多くの方々のご協力の下、本学に関わる新聞記事や貴重な写真等を、収集してきました。先人達の本学に注いだ想いがたくさん詰まった記念誌は、開学記念日の発刊を目指し、現在、校正作業を進めております。



【おわりに】

創立 120 周年記念事業事務室では、いよいよ 4 月に控える記念式典・祝賀会の挙行に向け、現在鋭意準備を進めております。また 9 月には、3 回目となる記念イベント「健康フェス 2017」を通じて、本学の魅力を積極的に発信し、大学ブランドの強化と更なる支援の拡大に取り組んでまいります。

本学にとって新たな歴史開拓に向けた起点の年を盛り上げるべく、今後とも教職員並びに関係各位の一層のご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

平成26年６月から始まりました岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第14回目の御芳名紹介です。（平成28年11月１日～平成28年12月31日）

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体等（７件）

＜1,000,000＞　医療法人　中庸会（岩手県花巻市）
　　医療法人　髙橋消化器内科（宮城県石巻市）
＜300,000＞　医療法人　暁会　田辺整形外科（大阪府大阪市）
＜200,000＞　医療法人社団　青空会大町病院（福島県南相馬市）
＜100,000＞　医療法人　しののめ会　鷺沼人工腎臓石川クリニック（神奈川県川崎市）
　　圭陵会　院長会（岩手県盛岡市）
＜御芳名のみ掲載＞　圭陵会　宮古支部（岩手県宮古市）

（順不同、敬称略）

●個人（44件）

＜10,000,000＞
坂井　武昭（医20）
＜2,000,000＞
菅　栄一（医24）
＜1,000,000＞
寺崎　公二（医34）
須藤　俊亮（医11）
金子　克（名誉教授）
松舘　邦彦（歯14）
＜500,000＞
西郡　秀夫（名誉教授）
川名　林治（名誉教授）
二木　賀子（父母）
齊藤　惠子（他23）
＜100,000＞
佐藤　宏昭（教職員）
国分　令子（医23）
＜10,000＞
鷹羽 マユミ（父母）
＜御芳名のみ掲載＞
齋藤　和治（医16）
後川　順一（父母）
渡邊　政勝（父母）
小玉　眞夫（医7）
小守林 尚之（歯1）

高橋　秀知（医27）
名取　泰博（役員）
田金　順弘（医28）
芳賀　盛（医21）
磯目　正人（父母）
臼木　豊（医32）
及川　忠人（医20）
金子　義伸（父母）
燕　軍（教職員）
猪又　義男（名誉教授）
太田　稔（名誉教授）
栗原　聡（父母）
小守林 靖一（教職員）
佐々木 明徳（医34）
藤井　勲（教職員）
毛内 智香子（父母）
塩澤　千代（歯5）
大島　真理（父母）

金子　洋（医28）
金子 信一郎（歯3）
増田　友之（教職員）
西田　陽（父母）
齋藤　紘（医18）
吉田　達朗（教職員）
安部　彦滿（医29）
佐藤　信（父母）

（順不同、敬称略）

区　分	申込件数	寄付金額（円）
圭　陵　会	504	354,070,089
在学生ご父母	377	207,370,000
役員・名誉教授	52	47,960,000
教　職　員	109	18,797,000
一　般	41	23,400,000
法人・団体	140	492,281,000
合　計	**1,223**	**1,143,878,089**

（平成28年12月31日現在）

新任教授の紹介

平成 29 年 1 月 1 日就任

統合基礎講座　薬理学講座病態制御学分野

小笠原 正人（おがさわら まさひと）

昭和 34 年 3 月 10 日生
岩手県盛岡市出身

研究テーマ

・D- 体アミノ酸による抗がん剤副作用・放射線治療後の後遺症軽減メカニズムの解明、薬剤性及び加齢による蛋白質の翻訳後修飾の解析

主な著書論文

・A549 細胞のミトコンドリア形態維持における PCMT1 メチル基転移酵素の保護効果 (Exp Lung Res. 2016: 42(5): 245-62.)
・上皮成長因子受容体のエキソン 19 における E746 欠損の解析 (Cancer Chemother Pharmacol. 2016; 77(5): 1019-29.)
・有機陽イオントランスポーター 3 欠損はヒスタミンと制御性 T 細胞を調節することにより、脳虚血を改善する。（J Cereb Blood Flow Metab, 2012; 32(10):1897-908.）

趣味

天体観測、旅行（禅寺に行くこと）、園芸

教職員への自己ＰＲ

本学医学部第二内科で医師としてスタートしてから、遺伝学、分子生物学、細胞生物学そして薬理学の研究・教育に携わってまいりました。その間、本学解剖学、呼吸器内科との共同研究もしてまいりました。この経験を生かし、様々な視点から歯学部薬理学での教育・研究の励んでまいりたいと存じます。医科歯科薬科連携は今日の高齢化社会において重要な課題の一つであり、関連分野との研究・教育に関して広く連携し、ますますの本学の発展に貢献していきたいと存じます。ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

経歴

昭和 60 年　東邦大学医学部卒業 (医師免許取得)、本学第二内科入局
平成 6 年　東北大学大学院医学系研究科修了 (医学博士)
平成 7 年　米国国立衛生研究所客員研究員
平成 12 年　愛媛大学医学部薬理学講座助手
平成 14 年　愛媛大学医学部薬理学講師
平成 17 年　愛媛大学医学部薬理学助教授
平成 19 年　愛媛大学医学部薬理学准教授
平成 29 年 1 月　現職

行　事　案　内

【平成28年度最終講義】

日　時：平成29年3月3日（金）　午前9時30分から
会　場：歯学部4階 講堂

― 講　演　者 ―

1 武田　泰典 教授（病理学講座 病態解析学分野）
演　　題：日本の片隅から
講演時間：午前9時30分～午前10時10分

2 杉山　芳樹 教授（口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）
演　　題：岩手医科大学歯学部口腔外科学分野のこれまでとこれから
講演時間：午前10時10分～午前10時50分

3 田中　光郎 教授（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）
演　　題：これからの小児歯科
講演時間：午前11時～午前11時40分

4 世良耕一郎 教授（高エネルギー医学研究部門）
演　　題：岩手に高エネルギーを、そして世界へ
講演時間：午後1時～午後1時40分

5 久保川　学 教授（生理学講座 統合生理学分野）
演　　題：生体バランスとイオンチャネル調節
講演時間：午後1時40分～午後2時20分

6 山内　広平 教授（内科学講座　呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野）
演　　題：呼吸器疾患の成因と病態の解明を求めて
講演時間：午後2時20分～午後3時

7 石田　陽治 教授（内科学講座 血液腫瘍内科分野）
演　　題：小さな血球　血小板　に魅せられて
講演時間：午後3時10分～午後3時50分

8 岡林　均 教授（心臓血管外科学講座）
演　　題：心臓血管外科に魅せられて－心臓血管外科医としての歩み－
講演時間：午後3時50分～午後4時30分

9 千田　勝一 教授（小児科学講座）
演　　題：サーファクタント補充療法の成功がもたらしたその後の進歩
講演時間：午後4時30分～午後5時10分

【平成28年度卒業式】

●岩手医科大学・岩手看護短期大学
日　時：平成29年3月10日（金）　午前10時から
会　場：岩手県民会館 大ホール

●岩手医科大学医療専門学校
日　時：平成29年3月8日（水）　午前10時から
会　場：歯学部4階 講堂

【新附属病院起工式】

日　時：平成29年3月13日（月）　午前10時から
会　場：矢巾キャンパス新附属病院移転用地内

【創立120周年記念式典・祝賀会】

開催日：平成29年4月20日（木）
記念式典：午後2時から　岩手県民会館
祝賀会：午後5時から　盛岡グランドホテル

口腔医学シンポジウム「口腔と精神医学」が開催されました

1月7日（土）、創立60周年記念館8階研修室において、戦略的大学連携支援事業～口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考～口腔医学シンポジウム「口腔と精神医学」が開催されました。

本事業は、福岡歯科大学を代表校として、7つの連携大学（九州歯科大学、北海道医療大学、岩手医科大学、昭和大学、神奈川歯科大学、鶴見大学、福岡大学）が連携して、次代の患者ニーズ・社会ニーズに対応する医療人の育成を目指すものです。医歯学連携による口腔医学の教育プログラム開発・実施、FD・SD活動、教職員の人事交流、学外実習など多様な取組を平成20年度から行っており、文部科学省からの補助が終了した現在においても、各大学から事業費を支出し、事業を継続しています。

今回は本学が当番校で、司会を歯学部 口腔医学講座関連医学分野 千葉 俊美 教授、討論のモデュレーターを歯学部 口腔保健育成学講座歯科矯正学分野 佐藤 和朗 教授が務めました。シンポジウムでは、医学部 から神経精神科学講座 大塚 耕太郎 教授、八木 淳子 講師、星 克仁 講師、内科学講座神経内科・老年科分野 工藤 雅子 講師の4人を講師に迎え、口腔と健康に関して講演いただきました。

医療関係者や市民約110名が参加し、口腔の状態が健康と密接に関係することを学び、口腔ケアの重要性に理解を深めていました。

（左から）大塚教授、八木講師、星講師、工藤講師、佐藤教授、千葉教授

大勢の医療関係者や市民が参加したシンポジウム会場

平成29年度一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験が行われました

平成29年度の岩手医科大学入学試験は、1月18日（水）に医学部一般一次試験、1月27日（金）に歯学部一般前期試験・センター試験利用入試（前期）及び薬学部一般前期試験、1月27日（金）・28日（土）に医学部一般二次試験、2月7日（火）に平成29年度新設する看護学部の一般前期試験が行われました。

志願状況は、医学部一般が3,621名（前年度比+81名）、歯学部一般前期・センター試験利用入試（前期）が94名（前年度比−35名）、薬学部一般前期・センター試験利用入試（前期）が228名（前年度比−41名）、看護学部一般前期試験が239名となりました。

看護学部一般前期試験（会場：矢巾キャンパス）

平成28年度高度看護研修センター認定看護師教育課程（緩和ケア分野）・特定行為教育課程（創傷管理関連）修了式が行われました

1月27日（金）、創立60周年記念館8階研修室において、平成28年度高度看護研修センター修了式が行われ、認定看護師教育課程（緩和ケア分野）12名、特定行為教育課程（創傷管理関連）4名に修了証が授与されました。

式では、寺山センター長から「科学的な論理、表現方法、問題解決法を習得したものと思います。この道を志す後進のためにも、チームの重要な一員として活躍していただきたい」と式辞が述べられ、続いて杉山病院長より「医師よりも患者さんに近い距離で寄り添い、心理的サポートをして欲しい。患者さんや家族、地域社会における生活の質的向上のため頑張ってもらいたい」と祝辞が述べられました。

研修生謝辞では、認定看護師教育課程（緩和ケア分野）代表の井上 智美さんより「苦しみを和らげるためには、患者さんやご家族に寄り添い、持っている力を最大限に生かす看護が重要であること、緩和ケアは看護の本質であることを実感しました」、特定行為教育課程（創傷管理関連）代表の藤井 京子さんより「医療者としての看護師の役割りを深く学びました。医療を受けられない方々のためにも、地域医療レベルの向上を目指して努力します」と力強い決意が述べられました。

修了証授与

修了生謝辞
（緩和ケア認定看護師教育課程　井上 智美さん）

実災害活動報告会「台風10号対応シンポジウム」が開催されました

2月1日（水）、矢巾キャンパス大堀記念講堂において、昨年8月に発生した岩泉町の台風10号豪雨災害に伴う災害時の医療対応について、報告会とシンポジウム「岩泉台風災害における各機関の対応」が開催されました。

当日は、消防・警察・自衛隊・海上保安庁・行政・医療関係者など200名を超える方々に参加いただき、災害医療に関する特別講演のほか、救急・災害・総合医学講座災害医学分野 眞瀬 智彦 教授から当時の対応について、報告と課題が発表されました。

シンポジウムでは、救助関係機関による災害時対応についての発表と、ディスカッションでは当時の対応のほか、他組織との連携などについても活発に討論が行われました。

災害当時の対応状況について発表する眞瀬教授

シンポジウムの様子

表彰の栄誉

情報薬科学講座 西谷 直之 准教授と構造生物薬学講座 阪本 泰光 助教に武田科学振興財団2016年度生命科学研究助成金薬学系研究奨励金が贈呈されました

情報薬科学講座の西谷 直之 准教授（写真左）と構造生物薬学講座の阪本 泰光 助教（写真右）は、平成28年11月14日に公益財団法人 武田科学振興財団2016年度生命科学研究助成金薬学系研究奨励の贈呈式に出席しました。この助成は、我が国の薬学分野の進歩・発展に貢献すると評価される独創的な研究に与えられるもので、計45件（私立大学11件）のうち東北・北海道地区の私学からは本学の2件のみが採択されました。

西谷准教授の研究課題は「多様なWnt/β-catenin経路阻害剤群による腫瘍免疫ブースト効果の解析」で、抗悪性腫瘍薬として用いられる免疫チェックポイント阻害薬の作用増強法の確立を目指しています。ニボルマブやイピリムマブを用いた腫瘍免疫療法が一部のメラノーマなどに著効する一方で、極端に応答性が低い症例も報告されています。このような腫瘍免疫療法に抵抗性の腫瘍を応答性に変える薬剤の探索とその作用機序の解明を試みています。

阪本助教の研究課題は、「糖非発酵グラム陰性細菌のペプチド代謝系を標的とする抗菌薬開発」で、炭水化物ではなく、タンパク質を栄養源とする多剤耐性菌や歯周病菌の生育や増殖に重要なペプチド分解酵素とその関連因子を標的とした抗菌薬の開発を目指しています。

受賞にあたりご指導、ご協力いただきました皆様方に感謝いたします。

（文責：西谷 直之・阪本 泰光）

薬学部5年生の櫛引 千里さんと米澤 夏里さんが第14回アジア結晶学会においてベストポスター賞を受賞しました

（左から）Alice Vrielink 教授、米澤さん、櫛引さん

この度、平成28年12月4日～7日までベトナムのハノイで開催された 14th Conference of the Asian Crystallographic Association（第14回アジア結晶学会）におきまして、「Crystal structure of bacterial dipeptidyl aminopeptidase Ⅳ complexed with peptide」という演題でポスター発表を行い、構造生物学分野の53演題の中から“ベストポスター賞”に選出して頂きました。

本研究は、現在深刻な問題となっている多剤耐性菌の出現に対して、これまでと異なる作用機序を持つ抗菌薬の開発を目標としています。そこで、ある種の多剤耐性菌は糖非発酵グラム陰性細菌であり、その多くは糖などの炭水化物の代わりにタンパク質やペプチドを栄養源としていることに着目しました。ペプチドを分解してジペプチドを作り出す酵素（ジペプチジルアミノペプチターゼ）であるDPPは、ジペプチド産生の鍵として働きます。今回はそのDPPの一つであるDPP4とペプチド複合体の構造から得られたヒトDPP4と微生物DPP4の基質認識部位の違いに関して発表を行いました。初めての学会ということで、様々な発表から刺激を受けたと同時に自分たちの課題を見つけることが出来る貴重な経験となりました。

今回の発表に際して様々なご配慮をいただいた構造生物薬学講座教授 野中 孝昌 先生、本研究において多くのことを指導してくださった同講座助教 阪本 泰光 先生、大学院生の六本木 沙織さん、ならびに同講座の皆様にこの場を借りまして改めて深く感謝申し上げます。

※Alice Vrielink 教授は、オーストラリア・ニュージーランド結晶学会（SCANZ）の副会長でAsCA2016実行委員であり、授与式でプレゼンターを務めました。

（文責：櫛引 千里・米澤 夏里）

大学院薬学研究科3年生の六本木 沙織さんが第55回日本薬学会東北支部大会において若手研究者発表賞、第14回アジア結晶学会においてTravel Awardを受賞しました

この度、2016年12月10日に仙台で開催された第38回東北薬学セミナーで行われた授賞式において、演題「糖非発酵グラム陰性細菌由来ペプチド分解酵素の構造生物学的研究」で平成28年度若手研究者発表賞（写真上段：日本薬学会東北支部支部長 上田 條二 先生（左）と撮影）を、2016年12月4日～7日にベトナムのハノイで開催された14th Conference of the Asian Crystallographic Association（第14回アジア結晶学会）において、演題「Crystal structure analysis of bacterial dipeptidyl aminopeptidase IV」でTravel Award（写真下段：構造生物薬学講座助教 阪本 泰光 先生（左）と撮影）を受賞しました。

Dipeptidyl aminopeptidase（DPP）は、日和見感染症を引き起こすことで知られる病原菌*Stenotrophomonas maltophilia*や歯周病原因菌*Porphyromonas gingivalis*などの糖非発酵グラム陰性細菌の生育に非常に重要なジペプチド産生酵素です。私たちは、このDPPを新たな標的分子とした抗菌薬の開発を目指し、X線結晶構造解析を中心とした研究を進めています。発表では、新たに明らかになった糖非発酵グラム陰性細菌DPP4の立体構造と、糖尿病治療薬の標的分子として知られるヒトDPP4の立体構造を比較検討し、糖非発酵グラム陰性細菌DPP4に特異的な阻害剤のデザインに役立つ情報を構造生物学的な視点から示しました。

若手研究者発表賞とTravel Awardは共に、今後の研究の発展や、研究者としての成長に期待しての賞であると感じています。大学院生活も終盤となり、研究は、様々な人が関わって成り立つものだということを実感しています。社会貢献できるような今後の研究の発展と自身の成長のために、感謝の気持ちと日々の積み重ねを大切にしていきたいと思います。

受賞にあたり、構造生物薬学講座 野中先生や阪本先生をはじめとする熱意ある先生方、心あたたかい研究チームの皆さま、日々応援してくれる家族に深く深く感謝いたします。

（文責：六本木 沙織）

理事会報告　（12月定例－12月19日開催）

1．附属病院副院長の選任について

附属病院副院長　井上　義博（新任）
（任期　平成29年1月1日から平成31年3月31日まで）

2．教員の人事について

医学部　リハビリテーション医学科　教授
西村　行秀
（現 和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座 講師）
（発令年月日　割愛の状況による）

医学部　産婦人科学講座　特任教授
熊谷　　仁（前　同講座　准教授）
（発令年月日　平成29年1月1日付）

3．職員の介護休業及び介護短時間勤務に関する規程等の一部改正について

平成29年1月1日付で育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律が改正されることに伴い、岩手医科大学職員の介護休業及び介護短時間勤務に関する規程及び岩手医科大学臨時職員の就業規則を一部改正することについて承認

（施行年月日　平成29年1月1日）

シリーズ 職場めぐり No.108

神経精神科学講座

当科は、平成28年4月に就任した大塚耕太郎教授を中心に、岩手の地に精神医療を均霑すべく、総合精神科医の育成に努めております。一方で、精神科救急分野においては、チーム医療の標準化、ガイドラインの策定や人材育成プログラムの開発をしております。また厚労省自殺未遂者再企図防止事業を通じて、今年度の診療報酬化に寄与しました。震災以降は岩手県こころのケアセンターと沿岸4か所のサテライトを中心に支援を継続しつつ、熊本地震にDPATを送り、岩泉の台風被害にも支援して参りました。また、沿岸3か所のブランチといわてこどもケアセンターを繋いで子どもの心のケアに当たってきましたが、さらに、新病院に大学病院としては初の小児精神科閉鎖病棟を設け、より多様なニーズに対応できる体制を構築して参ります。

震災から6年を迎え、未だ復興の途上にある岩手の全ての人の心に寄り添うべく、丁寧な診療を心がけて参りたいと思います。

（講師　星 克仁）

血液腫瘍内科外来

血液腫瘍内科外来は、血液造血器悪性疾患や貧血、血小板減少症の治療を、石田陽治教授・伊藤薫樹教授ほか4名の医師と看護師3名、クラーク1名で行なっております。

難治性疾患も、輸血療法、薬物療法、造血幹細胞移植の適応の拡大、治療法の開発によって治癒や寛解率も高まってきております。入院期間の短縮に伴い、外来化学療法など継続治療を行う患者様も増加しています。同種造血幹細胞移植件数も増加しており、現在40名程の移植後フォローアップ面談を行ったり、HIV/AIDSの中核拠点病院として、薬剤師や臨床心理士など多職種と協働し患者支援を行っております。また、針刺し事故にも対応しております。

私たちは、患者様個々の声を聞きながら、患者様が話しかけやすい雰囲気づくりに心がけています。不安が少しでも軽減でき治療が受けられるように、寄り添った看護の提供に努めていきたいと思います。

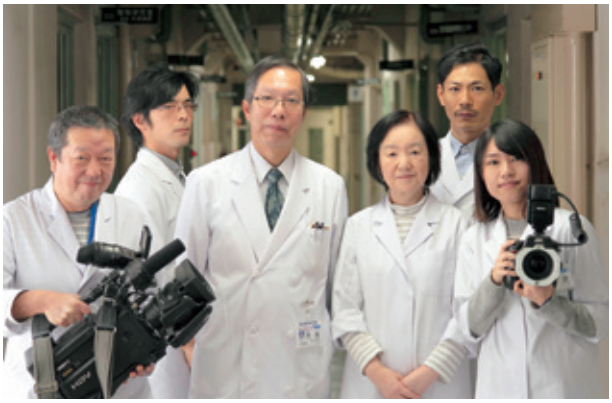
（主任看護師　西塚 希和子）

医用画像情報センター

医用画像情報センターは、昭和32年に故篠田糺第四代学長先生の大学拡充計画がはじまる中で学内の教育、研究診療用写真業務を集中的に効率よく遂行する共同利用施設として中央写真室の名称で発足いたしました。

発足当時は患者撮影の他、学会発表用の白黒やブルースライド、論文投稿用のプリントなどの銀塩写真やカラーポジスライド作製が主な業務でした。昭和55年からはビデオ撮影・編集開始。昭和63年にはPcを導入しデジタルによるスライド作製や画像処理を始めました。業務がアナログ写真からデジタル画像に変化することに伴い、平成16年より画像情報センターへと名称変更。本年度からは、センター長に吉岡邦浩教授を迎え11月に医用画像情報センターに名称変更をいたしました。平成19年からは大判プリンターでの出力を開始しています。詳しい業務内容・金額は冊子をご用意してありますので、受付にてお声をおかけください。

（主任技術員　大村 直樹）



編集委員コーナー No.15　～ 牡蠣の話 ～

この数年、盛岡でも美味しい牡蠣が食べられるようになりました。三陸の牡蠣漁師さんも、盛岡の人が好む牡蠣のレベルが高くなっていると話しています。いわて三陸水産会館、俺っ家、ビアバー・ベアレン、チャーリーズバー、MASS、京極、喜の字などは、それぞれ調理の仕方が違いますが、筆者が「牡蠣が美味しい！」と思ったお店です。その他にも、牡蠣を食べに行ってみたい店が増えています。

東日本大震災の後、生物学･生態学を専門とする筆者は、岩手県における牡蠣の天然採苗（養殖用の稚貝の採取）と人工採苗に、岩手県水産技術センターや沿岸広域振興局、および広田湾漁協（陸前高田市）や宮古湾漁協（宮古市）と協力しながら取り組んできました（写真１）。幸い、広田湾漁協の米崎・小友支所の皆さんのご協力を得て行なった試験研究では、2012 年の天然牡蠣が育ち、一昨年の秋には三年ものの状態も確認できました（写真２）。牡蠣の旬は冬と言われていますが、寒い岩手では実は春先のものが最も濃厚で、最近では「花見かき」（宮古）や「雪解け牡蠣」（陸前高田）など、大粒で濃厚、美味極まりない牡蠣も味わうことが出来るようになっています（写真３）。この春、皆さまも、どうぞお試しください。

また機会がありましたら、牡蠣の「雌雄」の話なども寄稿したいと思います。

（編集委員　松政 正俊）

写真1）広田湾での海洋観測。岩手県水産技術センターの貴志さん（手前）と。

写真2）大きく育った天然採苗の牡蠣。

写真3）純米吟醸と。

《岩手医科大学報編集委員》

小川　彰　米澤　裕司
影山　雄太　山尾　寿子
松政　正俊　菊池　初子
齋野　朝幸　佐々木さき子
成田　欣弥　佐々木忠司
佐藤　仁　熊谷　佑子
藤本　康之　畠山　正充
白石　博久　菅原　侑子
藤澤　美穂　武藤千恵子
髙橋　慶

編集後記

いよいよ記念式典も決定し、大詰めを迎えている創立120周年事業。ただ120年は実感するにはむずかしいので、私が生業としている写真の120年を調べてみました。

写真の1900年頃は現像がガラスからフィルムへと変わる過渡期だったようです。そしてその100年後にはデジタルが隆興し、今では鑑賞も紙から液晶へと変化しています。

やはり物事はつねに移り変わる物ですね。

（編集委員　畠山　正充）

岩手医科大学報　第485号

発行年月日　平成29年２月28日
発　行　学校法人岩手医科大学
編集委員長　小川　彰
編　集　岩手医科大学報編集委員会
事務局　企画部　企画調整課
盛岡市内丸19-1
TEL. 019-651-5111（内線7023）
FAX. 019-624-1231
E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印　刷　河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7
TEL. 019-623-4256
E-mail: office@kahoku-ipm.jp

すこやか

スポット医学講座

No. 75

睡眠医療学科　助教　細川 敬輔

過眠（かみん）症をご存知ですか？
―眠気の強さを医学的に評価する方法について―

「眠気」の悩みで受診する方々は、症状から「思うように眠くならない不眠症状」と「寝てはいけないときに眠くなる過眠症状」に大別されます。

不眠も多いのですが、最近では「過眠症状」が社会問題化しています。例えば、運転中の悲惨な居眠り事故がたびたび報道されています。2014年6月施行の改正道路交通法では認知症やてんかんとともに「重度の眠気の症状を呈する睡眠障害」が欠格事由にあげられています。

また、運転や危険作業以外でも会議で居眠りをする、大事なテスト中に眠ってしまうなど、さまざまな問題が生じます。

原因は多様ですが、睡眠時無呼吸症候群やナルコレプシーなどの疾患に基づくもの、薬の副作用、睡眠不足など日常生活から生じる場合もあります。当科では、これらの原因を医学的に調べ必要な治療を行います。

眠気そのものを評価する方法もいくつかあります。その一つは自覚的評価です。エプワース眠気尺度（Epworth Sleepiness Scale：ESS）が世界的によく用いられます。日本語版（JESS）を示します。これは、眠気を誘う8つの場面において、眠気を自覚するか4段階で回答するものです。合計11点以上であれば、過剰な眠気の疑いがあります。他に脳波計を用い、自覚症状ではなく、眠気を客観的に評価する検査法があります。

反復睡眠潜時検査（Multiple Sleep Latency Test: MSLT）は、薄暗い検査室で脳波を記録し、寝つく時間を測定します。1回の検査時間は20分で、2時間毎に合計5回行います。主に寝つきの早さとその睡眠の内容評価が必要な疾患の診断で用います。

覚醒維持検査（Maintenance of Wakefulness Test: MWT）は、MSLTと同様に脳波を記録し眠気を我慢してもらい、目覚めていられる時間を測定します。1回40分で、2時間毎に合計4回行います。過眠症状の治療効果判定や眠気が問題となる業務（例えば公共交通機関の運転手など）に従事する方の評価に用います。

過眠症状は自分だけの問題ではなく、社会的に重大な影響があるので、自覚症状のあるなしに関わらず、適切な医学的評価が必要なのです。

JESS™ (Japanese version of the Epworth Sleepiness Scale)

ESS 日本語版

もし、以下の状況になったとしたら、どのくらい**うとうとする（数秒～数分眠ってしまう）**と思いますか。**最近の日常生活**を思いうかべてお答えください。

以下の状況になったことが実際になくても、その状況になればどうなるかを想像してお答え下さい。（1 ～ 8 の各項目で、○は1つだけ）

すべての項目にお答えしていただくことが大切です。

できる限りすべての項目にお答えください。

	うとうとする可能性はほとんどない	うとうとする可能性は少しある	うとうとする可能性は半々くらい	うとうとする可能性が高い
1) すわって何かを読んでいるとき（新聞、雑誌、本、書類など）→	0	1	2	3
2) すわってテレビを見ているとき →	0	1	2	3
3) 会議、映画館、劇場などで静かにすわっているとき →	0	1	2	3
4) 乗客として1時間続けて自動車に乗っているとき →	0	1	2	3
5) 午後に横になって、休息をとっているとき →	0	1	2	3
6) すわって人と話をしているとき →	0	1	2	3
7) 昼食をとった後（飲酒なし）、静かにすわっているとき →	0	1	2	3
8) すわって手紙や書類などを書いているとき →	0	1	2	3

Copyright, Murray W. Johns and Shunichi Fukuhara. 2006.